



日本労働組合総連合会
群馬県連合会（連合群馬）

発行人 金子 裕昭
編集人 新井 智

〒379-2166

群馬県前橋市野中町361番地2
(群馬県勤労福祉センター2F)

TEL 027-263-0555

FAX 027-261-0549

Eメール info@gunma.jtuc-rengo.jp

URL http://www.rengo-gunma.gr.jp/

2015年7月号
No.239

格差・貧困の解消に向けて取り組んでいます。



生活困窮者自立支援法 施行

2015年4月1日から、生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し自立相談支援事業などの支援を行うことを目的とする生活困窮者自立支援法が施行されました。

生活困窮者に対して支援を早期に行うことで生活困窮から脱却することや、貧困の連鎖を断ち切ることが期待されています。



支援制度とは？

【自治体の必須事業】

- ・自立相談支援事業
- ・住居確保給付金の支給

【自治体の任意事業】

- ・就労準備支援事業
- ・一時生活支援事業
- ・家計相談支援事業
- ・子どもの学習支援事業

他、都道府県に就労訓練事業が求められています。

ここが問題！

しかしながら、制度が施行されるにあたり、任意事業を実施する自治体は30%程度に止まっています。

<群馬県は>

- ・子どもの学習支援事業への取り組みは
前橋・伊勢崎・安中の3市のみ
栃木県は全25市町村で実施
- ・自治体は、財源の問題が。
必須事業の補助4分の3、
任意事業の補助は3分の2あるいは2分の1

6人に1人の子どもが貧困の状態

2014年7月、厚生労働省が発表した2012年時点の「子どもの貧困率」は、16.3%と過去最悪を更新し、6人に1人の子どもが貧困の状態で生活していることが明らかとなっています。日本の「子どもの貧困」はOECD先進国中下から4番目で過去最悪を更新しています。

ひとり親家庭の過半数が貧困であり、中でも母子世帯においては約66%が貧困となっており、親の貧困が引き継がれるという「貧困の連鎖」を断ち切ることが急務です。

連合群馬 取り組み開始

① 組合役員への理解醸成（6月～7月）



地協での
学習会
(太田)

参加者は、子ども
達の現状に驚き！
取り組みの必要性
を認識！！

② 各自治体への要請行動（7月～8月）

- ・任意事業の実施
- ・財源確保に向けた国の補助を4分の3への引き上げを政府に働きかける要請を予定

③ 連合群馬議員懇との連携強化



連合群馬議員懇
議員に協力要請



群馬県の対応を「小川県議」が議会で質問

平成27年の第2回定例議会（6/1）において、リベラル群馬（連合群馬議員懇）の小川あきら県議は、子どもの貧困について、本会議の一般質問で、「子どもの貧困に対する県の考え方」「学習支援」「スクールソーシャルワーカー」について、群馬県の考え方などの質問をしました。

群馬県からは、「現状として、高校などの中退率は一般家庭の4倍、大学専修学校への進学率は一般家庭が約8割に対し、生活保護世帯（貧困家庭）は約3割と

なっている。貧困の連鎖を断ち切るため総合的な貧困対策計画を策定し、実効性を高めるため数値目標なども示していきたい」との考えが示されました。

連合群馬は引き続き議員懇など連携議員とともに、取り組みを展開していきます。



「次世代への継承」をもって、戦後70年目からの新たな平和運動をスタートさせよう!

～ 平和沖縄派遣団 ～ 沖縄の地で若い世代がディスカッション

平和行動in沖縄が6月23日から25日に開催され産別、地協から12名が参加しました。1日目はオキナワ平和集会在那覇市民会館で開催され、第1部、戦後70年の節目を迎えるにあたり、平和の尊さを「戦争を知らない若い世代」に対しどのように継承するのかについて、連合沖縄・広島・長崎・北海道の各青年委員会役員をパネリストとしたディスカッションが行われました。



パネリストからは「平和が当たり前になっている今に危機感を感じている」「継承には言葉で伝えるとともに、当時の施設の保存も大切」といった意見がある一方で「経験したことのない人がいくら話をしても説得力がない」などの課題も提起されました。

第2部の平和式典では、地域や職場からの平和メッセージ、連合広島へのピースリレー、連合沖縄からの平和アピールが、1,300名を超える参加者で共有されました。



2日目は、連合埼玉と合同で沖縄地上戦が行われた南部戦跡を巡り、『負傷兵とその人たちを世話する民間人が過ごした洞窟アブチラガマへの入壕』『平和記念公園内の群馬の塔へ1万2千羽の折鶴献納』『平和祈念資料館およびひめゆり平和祈念資料館での学習』『旧海軍司令部壕への入壕』など、当時の悲惨な状況について学び、その後、県庁前広場にて在日米軍基地の縮小と日米地位協定の抜本的見直しを求める集会とデモ行進に参加しました。



アブチラガマの説明を受ける

戦争や平和と聞くと、沖縄、広島、長崎、北海道をイメージしてしまいが、一部の地域の問題ではありません。

私たちの身近なところから平和を焦点にあてた運動がこれからも必要です。

連合平和行動は8月の広島、長崎、そして9月の北海道根室へと続きます。



安全衛生セミナーを開催

6月13日、群馬労働局健康安全課の課長齋田一行氏を講師に招き、「労働災害発生状況と安全衛生管理への取り組み」と題しセミナーを開催しました。

第12次労働災害防止計画に基づく群馬労働局推進計画の概要、また2014年6月に一部改正された労働安全衛生法、①化学物質についてリスクアセスメントの実施義務化、②ストレスチェック実施の義務化、③受動喫煙防止措置の努力義務、④重大な労働災害を繰り返す企業に対する、大臣名での指示、勧告、公表を行う制度の導入について説明を頂きました。特にストレスチェック制度については、メンタル不調の未然防止に向けたセルフチェックの制度であると説明がありました。

また、災害予防には制度や仕組みだけでなく、日頃のコミュニケーション（相手の言葉に耳を傾けること）が大切であるとも話されていました。



議員懇談会・学習会開催

7月12日、連合群馬議員懇談会臨時総会および学習会を開催し、42名が参加しました。

臨時総会では、4月の統一地方選挙で勇退した塚原代表（写真）の後任に黒沢新代表とする新役員体制を確認しました。



続いて、群馬県から講師を招き学習会を開催し、①群馬県の危機管理、②観光県群馬の取り組みについて説明を受けました。

観光県群馬の取り組みでは、2日前に発売になったプレミアム付き宿泊券について、「群馬を知ってもらいたいチャンス」と観光PRについて説明があり、参加者から「発売の混乱が多かった、先行している他県状況を踏まえて発売して欲しい」と意見が出されました。



特集 - 戦後70年 - 群馬の戦争遺跡

アジア太平洋戦争の終結から今年で70年が経ちます。

連合では平和行動として沖縄・広島・長崎・根室へ派遣し、現地を見聞する中で歴史を知り学び、次代へと語り継ぐ活動をしています。

1945年8月6日に広島、9日には長崎に原子爆弾が投下されました。わたしたちのふるさと群馬県内でも米軍艦載機（B29）による空襲はその年の2月10日の太田町（当時）の中島飛行機太田製作所とその周辺から始められていました。以後、7月の前橋市、高崎市、8月5日の前橋市の大空襲。敗戦前夜の伊勢崎市、高崎市と続いたのです。「戦争の記憶」を刻印した戦跡はモニュメントとして、負の遺産として地域に様々な形として存在しています。

県立公園「群馬の森」に残る 陸軍火薬製造所跡

「群馬の森」の地はかつて陸軍の火薬製造所があり、隣接する用地を含め107万平方メートルあり広大なものでした。1882年に黒色火薬の製造が開始され、後に陸軍で唯一のダイナマイト製造がはじまりました。不慣れた労働者が長時間労働の疲労から注意力が散漫になり、爆発事故が起こったそうです。周辺には慰霊碑や土塁による避難用通路などが見られます。



中島飛行機太田製作所の藪塚地下工場跡

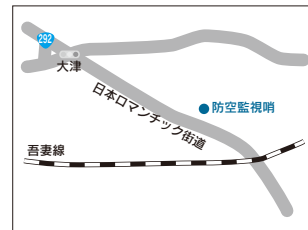
中島飛行機では陸海軍のさまざまな機体を製造しました。藪塚地下工場は分散工場として1945年10月の完成をめざしており、1500人の労働者が10時間交代で従事しました。

地下壕は2つの工場を建設する予定で幅4メートル、高さ3.5メートルの素掘りトンネルを連結した構造になっています。敗戦時の進捗状況は全工程の2分の1程度でした。地下工場のトンネルの入り口が開口しています。



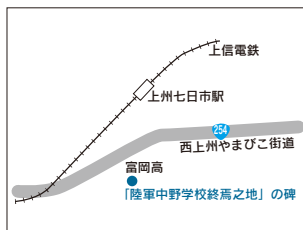
長野原町の防空監視哨

敵機の侵入・空襲を監視する防空監視哨が各地に設置され、群馬県では前橋・高崎・渋川に監視隊本部があり、各管下に合わせて40カ所の監視哨が24時間体制で上空監視をしていました。昼間は肉眼や双眼鏡、夜間は爆音を頼りに敵機の機種・数・進行方向を判断して本部に電話で報告をし「警戒警報」や「空襲警報」が発令されていました。



富岡に疎開した陸軍中野学校 「陸軍中野学校終焉之地」の碑

将来大本営を長野県松代に移す構想のもと東京と松代のほぼ中間に位置する富岡に、1945年3月頃に陸軍中野学校が現在の県立富岡高校（旧制富岡中学）の地へ疎開してきました。戦況悪化、本土決戦必至の情勢にあり、中野学校の目的も諜報・謀略戦のスパイ養成から遊撃（ゲリラ）戦の幹部教育に重点が移ったと言われています。敗戦後は降伏をひかえ、証拠書類は焼却処分、燃えない器材類は校庭に埋めましたが、占領軍がすべて掘り返して持ち去ったと言われています。



著書「学び・調べ・考えようフィールドワーク『群馬の戦争遺跡』」、「上毛新聞」に見る敗戦後の群馬県」を参考に掲載しております。こちらに記載した戦跡は県内の全てではありません。自治体のHP等でも掲載されていますので、夏休みには家族でぜひ話す機会を設けていただき、「戦争と平和」について考えていただければと思います。

なお、戦跡は私有地の場合もありますので、足を運ぶ際はご注意ください。

戦後70年 今、国のありようが大きく変わる危険が…（安全保障関連法案）

国会で安全保障関連法案が審議スタートし、衆議院で与党などの賛成多数で可決、参議院に送付されました。

国会での審議は、野党の追求に対する政府答弁は不十分で不明瞭なものに終始し、政府が主張する論議が尽くされたとは到底言えない状況の中、強行採決という暴挙に出ました。

連合は、「安全保障関連法案の国会審議に対する連合の考え方」を以下のとおり確認しています。

- ①連合「政治方針」および「国民軽視の進め方になってはならない」「国民の懸念に依っていない」という現時点の認識に立ち、政府の提出した安全保障関連法案に反対する立場から対応する。
- ②政府・政党に対しては、一括の審議ではなく個々の法案ごとに国会論戦で論点を明らかにし、オープンかつ徹底的な議論を十分な時間をかけて行うことを強く求める。当面「専守防衛に徹し、近くは現実的に、遠くは抑制的に、人道支援は積極的に」との考え方を明示している民主党と連携しながら、国民目線での分かりやすい論議を促し、国民の問題認識の喚起をはかる。当面、政府・与党の強引な国会運営・強行採決に抗議するとともに、民主党の政府・与党の追求を支え、世論喚起をはかります。



NEW

新人

県議を紹介!

【泥臭く 歩いて聞いて 汗をかく】

本郷 高明 (前橋市区・日教組)

☆継続は力なり、毎朝恒例の市内14箇所での街頭活動と個々面接を中心とした地域の出前行政相談を精力的に行っております。陳情等が多くなりましたが、初心を忘れず、出来る限り、自らが出向いて状況を把握する毎日を過ごしております。

ON



↑ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査・視察

↓県民(フル)マラソンに向けて夜中に特訓中



OFF

【政策で 勝負をするぞ 県議会】

井田 泰彦 (桐生市区・桐生地協)

☆県議として3か月。市議時代と同様に日々、政策の種を探し育てています。定例会を経験し、仕事の範囲が広い分議論が漠然としやすいと感じました。意識して現場に寄り添い、具体的な提案をするように心掛けています。

ダイエットがてら始めたジョグが高じてマラソン大会に参加。県議会へも自転車で通っています。

ON



初登庁→

OFF



【これからも 庶民の感覚 忘れずに】

加賀谷 富士子 (伊勢崎市区・伊勢崎地協)

☆仕事と家事と育児の両立が大変ですが、夫に家事、育児を頑張ってもらっています。先日は家に帰ると夕飯のおかずが5品もあり感激。翌日は1品でした(泣)。家族の助けを経て、自らの実体験を皆様とともに県政に反映していけたらと思っています。

ON



我が家のペットの「メーさん」です

←水防演習会でペナン大使のゾマホンさんと

OFF



7月5日に投開票された群馬県知事選挙において、連合群馬で支持した『大沢正明』氏は見事に当選を果たすことができました。皆様のご支援・ご協力に感謝いたします。

すべての働く人、働きたいと思っている人たちのために行動することが、今、私たちに求められています。

(高草木)

特に労働組合のない企業では労働者一人ひとりの力は弱く、法律で守られている労働者の権利すら軽視されることもあり、それゆえ労働現場ではトラブルが絶えず、解決も進まず、多くの働く仲間の暮らしは、かつてないほどの厳しい状況に陥っています。

加えて、正規・非正規の格差が拡大し、労働者を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

昨年12月に厚生労働省が発表した報告によると、現在の日本の労働組合推定組織率(雇用者数に占める労働組合員数の割合)は17.5%となっており、労働者のほとんどが組合のない職場で働いていることになります。



「安心して働きたい・暮らしたい国」
「1000万連合実現に向け」

連合群馬は、昨年、「1000万連合」実現に向け、結

成以来過去最高の組織人員12万5千人を掲げた「キック

オフ宣言」を確認し、目標達成に向け取り組みを展開し

ています。